2015 年 10 月 11 日「御言の力」

＜　聖書箇所　＞「ヤコブの手紙 1 章 19 節～22 節」

愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。人の怒りは、神の義を全うするものではないからである。だから、すべての汚れや、はなはだしい悪を捨て去って、心に植えつけられている御言を、すなおに受け入れなさい。御言には、あなたがたのたましいを救う力がある。そして、御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。

＜　説教抜粋　＞「御言の力」

今日の説教の題名は、「御言の力」です。聖書の拝読箇所は、ヤコブの手紙 1 章 19 節～22 節です。ヤコブの手紙は、「主の兄弟ヤコブ」が書いたとされている書簡です。「愛する兄弟たちよ。このことを知っておきなさい。人はすべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。」。

私たちは、どちらかといえば、人の話をあまり聞かず、自分の言葉をたくさん言う傾向があるかもしれません。しかし、本来は、聞くにおいて熱心であるべきで、語るにおいて慎重であるべきです。「怒るにおそくあるべきである。」。

怒りは、なぜ生じるのでしょうか。人は、自分の気持ちが相手に通じない時、「怒り」という感情が出てくるようです。「怒り」には、対象や主体が必要です。つまり、「誰か」や「何か」に対しておぼえる感情が「怒り」です。「怒り」を他の言葉で言いかえると、「相手と関係を結びたいという切実な思い」なのではないでしょうか。

私たちは、人間関係で悩みやすい傾向があります。もし、豊かな人間関係を結んでいったとするならば、豊かな生活をすることができます。人の怒りは、神の義を全うするものではありません。一方、御言には大きな力があります。

私たちは、御言を単に聞くだけではなく、生活の中で実践する者にならなければなりません。生活の中で御言を実践することで、豊かな人間関係という実りを結んでいくべきなのです。